

大和市市民環境調査事業

ツバメ情報調査

実施報告書

平成27年度



目次

1 はじめに1ページ
2 講習会の実施1ページ
3 調査方法2ページ
4 調査結果3ページ
5 まとめ6ページ

1 はじめに

ツバメは1984年～2001年に環境省が実施した、「身近な生き物調査」において、環境指標種に指定され、調査されていました。近年、ツバメは減少傾向にあると言われており、その背景には、農業の衰退によりエサ場となる水田や耕作地の減少や、巣作りに適した日本家屋の減少などがあると考えられています。

そこで、大和市内でのツバメの生息状況を知ること、また、ツバメの生息状況と周辺環境との関連を明らかにすることを目的として「ツバメ情報調査」を開始しました。

「ツバメ情報調査」は、市民の皆様に調査員となっていただき調査を行う、市民環境調査の一環として行います。

2 講習会の実施

日 時 : 平成27年4月19日(日) 14時00分～16時00分
場 所 : 大和市自然観察センター・しらかしのいえ
参加者 : 13名

市民環境調査員として調査にご協力いただくにあたり、ツバメに関する基礎知識を学んでいただくことを目的として、大和市自然観察センター及び日本野鳥の会の協力のもと、講習会を実施しました。

講習会では、大和市内で見られるツバメの種類やその見分け方、日々の生活スタイル、ツバメを取り巻く環境の変化について等の学習に加え、ツバメの標本を手にとって観察することも行いました。

時間	内容	講師
14:10～14:50	・ツバメの生態について	自然観察センター・しらかしのいえ 秋山 博 氏
14:50～15:10	・ツバメの現状について ・ツバメの子育て状況調査参加方法について	日本野鳥の会 荒 哲平 氏
15:10～15:20	・調査員証の授与	
15:20～16:00	・フィールドワーク 相模大塚駅周辺にて実際にツバメの巣を観察	

講習会中の風景…



- ツバメの日常について



- ツバメを取り巻く環境の変化について



- ツバメ標本



- 実際にツバメの巣を観察

3 調査方法

「市民環境調査員」の方に、市内に営巣されているツバメの巣を発見し、子育て状況を調査していただきます。

調査報告は、巣の発見場所や子育ての状況、その他気づいたことなどを、日本野鳥の会で運営する「ツバメの子育て状況調査」のホームページへ入力することにより行います。このホームページでは、大和市内だけでなく、日本全国で調査されたツバメの巣についての情報を閲覧することができます。

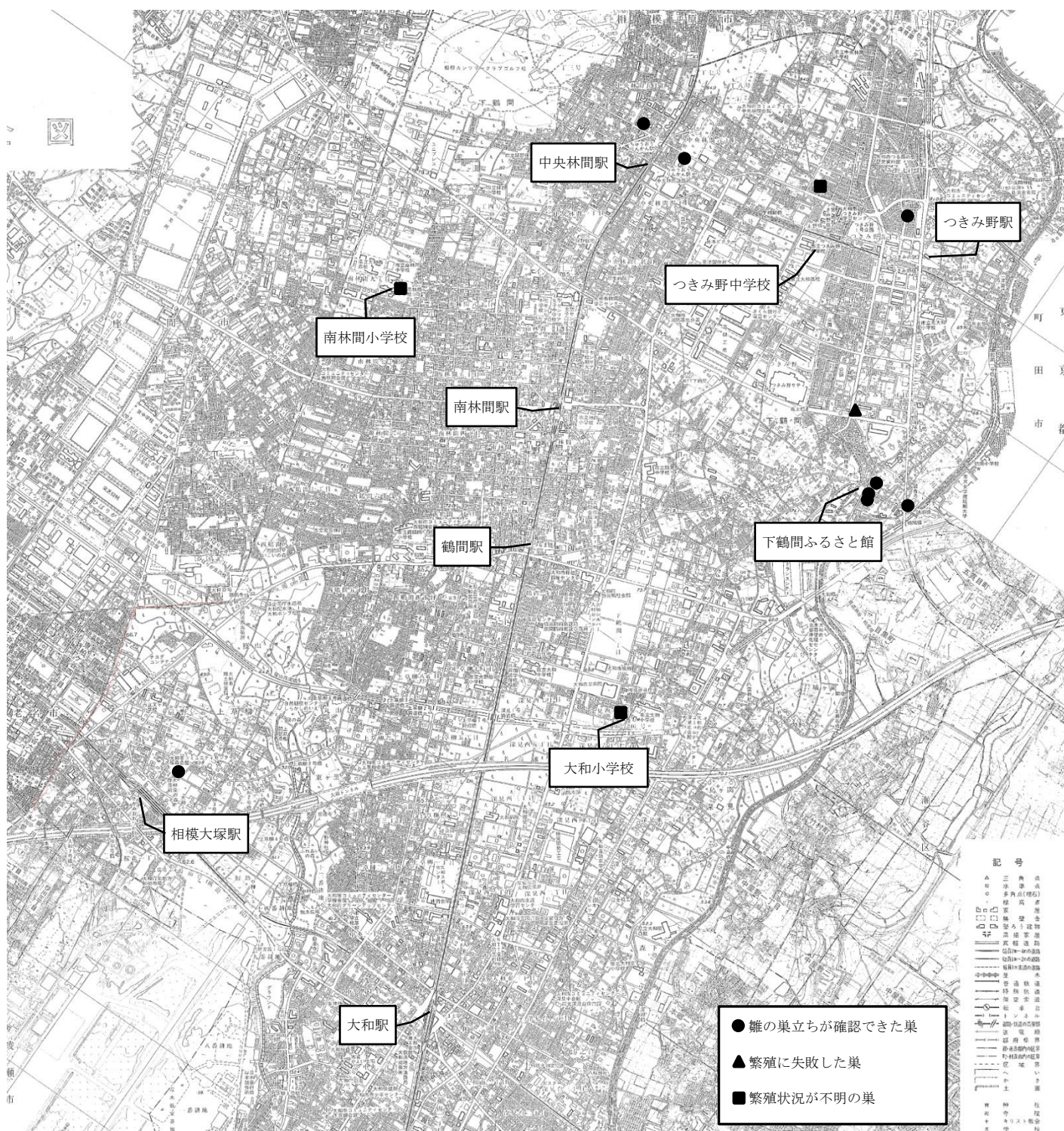
調査期間については、講習会の翌日（4月20日）から9月30日までとしました。

【参考】ツバメの子育て状況調査ホームページ：<http://tsubame.torimikke.net/>

4 調査結果

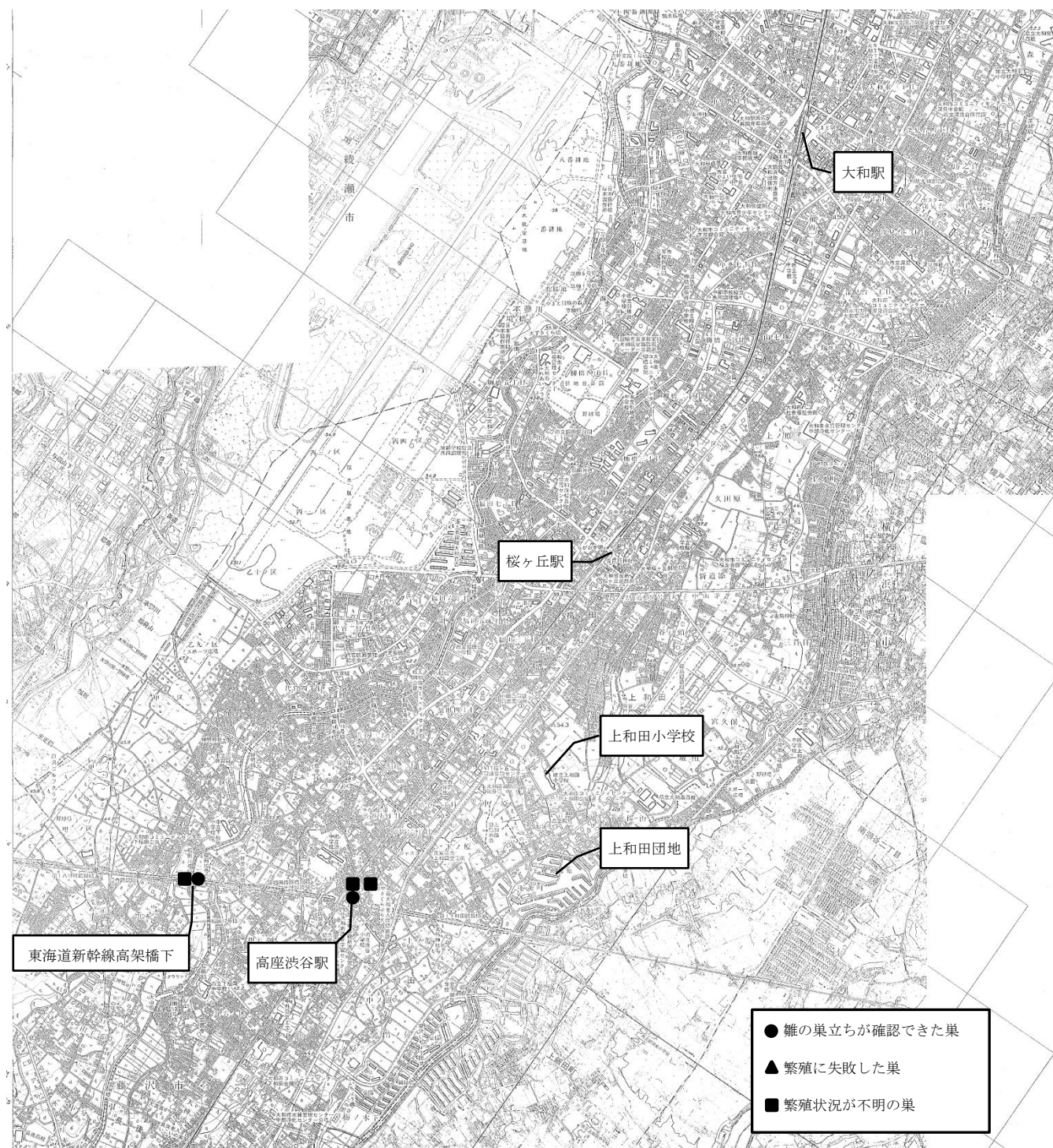
1) 北部～中部地域での営巣状況

北部～中部地域では、中央林間駅周辺で2巣、つきみ野中学校周辺で1巣、つきみ野駅周辺で1巣、下鶴間ふるさと館周辺で5巣、南林間小学校で1巣、大和小学校周辺で1巣、及び、相模大塚駅周辺に1巣の、計12巣の営巣がみられました。



2) 中部～南部地域での営巣状況

中部～南部地域では、高座渋谷駅に3巣、及び、東海道新幹線高架橋下に2巣の、計5巣の営巣がみられました。大和駅及び、桜ヶ丘駅周辺での営巣は確認できませんでした。



3) 繁殖状況について

・雛の巣立ちが確認できた巣（地図上●標記の巣）

	巣立った雛の数	備考
中央林間駅周辺の巣1	3羽	
中央林間駅周辺の巣2	5羽	
つきみ野駅付近の巣	4羽	
下鶴間ふるさと館周辺の巣1	10羽	同じ巣で2回繁殖（5羽：5羽）
下鶴間ふるさと館周辺の巣2	9羽	同じ巣で2回繁殖（5羽：4羽）
下鶴間ふるさと館周辺の巣3	10羽	同じ巣で2回繁殖（6羽：4羽）
下鶴間ふるさと館周辺の巣4	3羽	
相模大塚駅周辺の巣	9羽	同じ巣で2回繁殖（5羽：4羽）
高座渋谷駅周辺の巣	5羽	
東海道新幹線高架橋下の巣	4羽	

巣立った雛は最小3羽、最大6羽が観測され、合計62羽の雛が巣立ちました。1巣あたりで巣立った雛の平均値は、4.42羽となりました。また、1番仔平均は4.5羽、2番仔平均は4.25羽となりました。

※1巣あたりで巣立った雛の平均値＝巣立った雛の合計÷雛が巣立った巣の合計（のべ数）

* 巣立った雛の数が不明だった巣は除外しました。

* 2回繁殖した巣は別の巣として計算しました。

・繁殖に失敗した巣（地図上▲標記の巣）

下鶴間ふるさと館付近の巣の1つは、巣が壊されてしまったようです。原因は不明です。

・繁殖状況が不明の巣（地図上■標記の巣）

親鳥による巣作りは確認していますが、繁殖状況については不明となっている巣です。

5 まとめ

昨年小田急線鶴間駅前の大手スーパーマーケットの壁にツバメの巣の痕跡を発見し、今年の営巣を楽しみにしていました。一般的な巣の造営よりも1カ月以上遅れた5月の末、親鳥がやってきてせつせと巣を作り上げました。巣に座っていることが多くなったある日、巣の周辺に鎖が数本下げられていました。これでは羽ばたきの邪魔になって巣への出入りができません。親鳥はいつの間にか見えなくなりました。巣の下の子自転車2台分くらいのスペースを確保しておけば済んだはずなのに、残念なりません。

それに引き換え、中央高速道路の談合坂サービスエリアでは、障害者用駐車スペースの屋根下の鉄骨に集合住宅のように巣が多数作られていて、1個1個に糞よけの板が取り付けられていました。上信越道の横川サービスエリアも同様に手厚い保護がされています。見上げる観光客の顔もほころんでいます。

ツバメが巣を作ることはその家にとっていいことだと、昔から多くの言い伝えが残っています。「巣をかける家は縁起がいい」「巣をかける家は吉事がある」「巣をかける家は病人が出ない」「火事を出す家には巣を作らない」「巣が多いほどその家は繁盛する」「巣をかけなくなったら火事に気をつけろ」など、すべてが良いことばかりです。

電車の駅や商店の出入り口など、人の出入りの多い場所では、糞害に気を遣うことは分かりますが、ちょっとした知恵で防ぐことができるはずですが、日本で繁殖しているツバメの越冬地は台湾、フィリピン、インドネシア、オーストラリアなどであると分かっていますが、そんな遠方からはるばるやってきたツバメにとって、繁殖のための良好な環境を提供してあげたいものです。

さて、今年の調査の結果ですが、昨年より調査ポイントが多くなりました。やはり調査の目が増えれば増えるだけ発見されることがわかりました。もっと多くの人が参加するようになればもっと増えることでしょう。ただ、市の周辺部での発見がほとんどで、中心部で発見されていません。やはり巣材集めに適していないのでしょうか。でも鶴間の駅前で作りかけたのですから、探せば見つかるはずです。

また、かなりの巣で複数回の巣立ちが観察されています。ツバメの生態観察の結果では、複数回の繁殖が記録されることが多く、数多くのヒナが巣立っています。巣立ったヒナの多くが生まれた地域に戻ってきます。大和市内で今年巣立ったツバメは少なくとも62羽という結果です。どれだけの数が来年まで生き延びるか分かりませんができるだけ多くが戻ってきてもらいたいものです。

繁殖の数の調査は巣の観察で可能ですが、来年は巣材をどこで集めているかも調査してみたいですね。また、じっくりとえさ運びを観察すると、1分間に何回来るか、1回に何羽にえさを与えているかなど、ツバメの行動の詳細も分かってくるでしょう。

平成27年度 大和市市民環境調査事業「ツバメ情報調査」実施報告書

- 協力 公益財団法人 日本野鳥の会
 公益財団法人 大和市スポーツ・よか・みどり財団 大和市自然観察センター
- 編集 大和市 環境農政部環境総務課
- 発行 大和市
 大和市下鶴間一丁目1番1号
 TEL 046-263-1111（代表）



古紙配合率100%
白色度70%再生紙を使用しています